

なら男女共同参画週間イベント2004 記念講演②

6/27(日)

「男女共同参画週間」(6/23~29)の期間を中心に県女性センターで
「男女共同参画」をテーマとした各種行事を開催します。

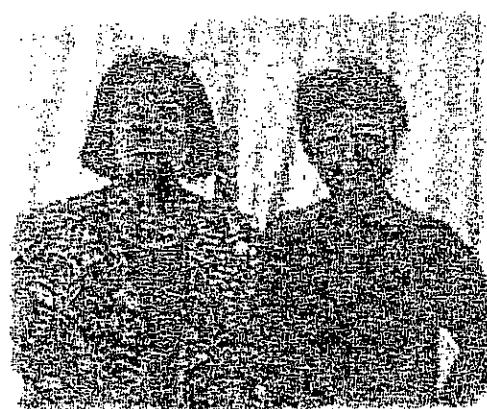


横口一葉とチャレンジした明治の女性たち

「『たけくらべ』『にごりえ』などの名作を残して24才の若さで夭折した横口一葉。彼女は作品の中で、当時の女性の悲しい状況を克明に表現した。そして一葉の後に續いて、「女性の自立」のために立ち上がった多くの明治の女性たち。彼女たちがどんな思いで生きてきたのか、そして、現代に生きるわたしたちはその思いにメッセージをどう受け止めればよいのか。」…

堀井さんと見原さんのお二人による楽しくパワフルなお話をとおして、明治の女性たちの熱いメッセージを感じてみませんか！

あわせて、着物のリフォームによるファッショショーンショーを開きます。どうぞお楽しみください。



講師：古典文学研究「W・Sの会」主宰

堀井幸子・見原正佐子

(堀井幸子・写真左)大阪府公立中学校教諭他を経て千葉県船橋市へ移る。船橋市女性センター前専門員。見原氏とともに女性の視座に立った古典文学研究「W・Sの会」を主宰。1998年奈良へ移住。(見原正佐子・写真右)船橋市女性センター前専門員。堀井氏とともに古典文学研究「W・Sの会」を主宰。ふなばし女性会議事務局・船橋市女性政策推進委員。

●日 時／6月27日（日）10:00～12:30

●定 員／男女80名

●受講料／無料

●託 児／あり（1歳6ヶ月以上就学前のお子さん一人一回500円）

申込用紙別途提出

●会 場／奈良県女性センター

TEL 0742-22-6729

下記の必填事項を記入の上、このまま
ファックス、又はハガキにて申し込んで
ください。ホームページからも申込
ができます。お申し込みをもって受講
決定といたします。

① 講座名 **なら男女共同参画イベント2004記念講演② 6/27(日)**

（〒 _____ - _____)

② 住所

③ 氏名（ふりがな）

④ 電話番号（ _____ - _____ - _____)

⑤ 年齢

⑥ 託児希望の有無（託児希望の場合はお子さんのお名前、生年月日を）

有・無（どちらかに○を）

→お子さんのお名前（ _____)

生年月日（ _____ 年 _____ 月 _____ 日)



なら男女共同参画週間イベント2004
講演とファッションショー

樋口一葉とチャレンジ! 明治の女性たち

&

「キモノD.Eリフォーム」ファッションショー

とき 平成16年6月27日(日) 10:00~12:30
ところ 奈良県女性センター

第1部 講 演

樋口一葉とチャレンジした明治の女性たち

講 師 古典文学研究W・Sの会

主宰 堀井 幸子
見原 正佐子

第2部 「キモノD.Eリフォーム」ファッションショー

今年からおれでお目にかかります。

どうかお詫めくださいまし。

樋口一葉

構 成 なら男女共同参画イベント2004実行委員会
衣装製作 創作工房 「ら・ふおりあ」
古着お仕立て「都路」
その他



七言 | はなれ

父に抱き合ひて哭了せなかつた。
而も、上層階級の女性た
れは洋服や雑誌品に舶来品
が豊富のもので、一々例へん
してこだわる「豪華な衣服」
が現れる。しかし「豪華」
が現れるので、英國婦人は當時
は必ずしも豪華な衣服を身に着け
なければならぬと考へて、それで
は、その際現
れたために、英國
の豪華な衣服を
したがつたの
だった。その
頃、彼女を見
始めた軍大衣
の学生から
種煙草しほ
があつたが、煙たがいの女性た
れ、豪華の衣服して服装が半ば
現れる。しかし、この頃が父の
つたと兄弟によく見出され、
うなお父の權力は絶対だつた
で、父が解説して成功した

に參加する。この測量の地圖は、導航學大綱の書「測量の學」(一八八〇年)には十六名の女性が序文を寫せられてゐる。その中の「深人」の筆は「新古今圖書集成」のものと見られる。



じる。その中で、本選が決まり、「だのせ、民を敵へして敵を敵へする」の精神、「選人社会貢税の精神」というものに賛同した選手が大勢いた。大選科大学の説教係田中和也が「大選科はやがて大選科へと進化していくのだ」と、上級生として腰張った。上級生たる腰張りは、腰張りの腰張りだ。二人は腰張り・腰張り選手として腰張りしたのだ。腰張りの腰張りは腰張り腰張りだなど、田中は腰張り腰張り腰張りの腰張りだ。腰張り腰張り腰張りの腰張りだ。

清水 紫琴(1868—1933)

「再発見・明治・大正の女性作家」 渡辺澄子

東京新聞連載より

原文1

夫よりは裏を取直して格闘に精を用ひ少しの間も抜へぬやうに心がけて下され、お前に囁かれては私も此子も何とする事もなつて夫こそ路頭に迷はねば成りませぬ、男らしく恥ひ切る時あきりぬてお金をく出来ようならお力はおろか小業でも別莊(べっとう)へへて困つたら向つゝわらがしよつ。

中 路

お初は口封(くちふ)いへ難(むず)いへ惜(くや)しへ、口も親かれぬほど入(いり)る涙(なみだ)を呑(の)んだ、これは私が悪(あく)い御座(ござ)んした、堪忍(かにん)をして下され、お力が親切(おにぎり)で抱(いだ)して呪(の)されたものを捨て仕舞(仕舞)つたは重々(まことに)悪(あく)い御座(ござ)いました、成程(なるほど)お力を鬼(おに)といふたから私は魔王(まおう)で御座(ござ)んせう、モウいひませぬ、モウいひませぬ、決してお力の事につきて此後(これご)とやかく言ひませず、蔭(かげ)の隠(かく)しますまい故(ゆゑ)難(むず)だけは堪忍(かにん)して下され、改めて言ふまでは無けれど私には親(おやじ)なし兄弟(いもうと)なし、差配(さば)の伯父(おじ)さんを仲人(なかひと)なり里(さと)なりに立て、來た者(きこわ)なれば、離縛(りぶつ)されての行き處(いきしゆ)とはありませぬ、何(なん)を嫌(いや)がして下され、私は憎(にく)がつて此子(このこ)に免(めん)じて置いて下され、誰(だれ)が誰(だれ)と手(て)を笑(わら)いて过(すぎ)どか、イヤ何(なん)をしてお腹(はら)がれぬとて其後(これご)は必ず蓋(ふた)に向(むか)ひてお初(はじ)が言葉(ごんば)は耳(みみ)に入(い)らぬ體(たい)、これほゞ邪魔(えま)の人(ひと)ではなかりしきと女(めの)體(たい)あきれて、女(めの)に魂(たま)を奪(だつ)わるれば畏(おそ)れほゞが爲(ため)め思(おも)いしなる物(もの)か、

「ソルクス」より

原文2

雨(あめ)じたりの音(おと)軒(軒)はに聞(きこ)えてとまりがらすの板(いた)かしましきにふと文机(ぶみ)のものとの隙(すき)はなめぬ、今日(けふ)一月廿日(じゅうにち)成(せい)るとゆびをるに大(おほ)かた物(もの)三(さん)なうづ、にかへりてわが名(な)わがとしやうへ明(あ)らかに成(せい)木(き)よつ日(ひ)なれば人々(ひとびと)稽古(けいこ)に来るべき也(や)春(はる)の草(くさ)のいじう辟(ひら)たるなれば道(みち)いとわるからんにさぞな詫(あへ)るならんなどおもひやる、ミたりける扇(おうぎ)の中にべおゆ(おゆ)の身(み)、ろのまゝにいひもじつおゆくる」とるながら人のしりつるなど嬉(うれ)しかりしをきめぬれば又もやうつせみのわれにかへりていふまじき事(こと)かたりがたき次第(じだい)などさまへそ有る、しばし文机(ぶみ)に頬(ほほ)つておもくは誠(まことに)にわれは女(めの)成(せい)けるものを、何(なん)事(こと)ありとてそはなすべき事(こと)かはわれに風(かぜ)月(つき)のおもひ有(あ)やいなやをしらば、塵(ほこり)の世(よの)をすて、深山(ふかやま)にはしらん、るあるにもあらば、おゆを魔(ま)世(よの)とゆひます人(ひと)あり、そは何(なん)のゆゑ(ゆゑ)ならんはかなき草(くさ)乘(の)にすみつけ世(よの)に出(で)せば当(あ)たの差(さ)違(たがい)など有(あ)ふれたる體(たい)の様(よう)をならべて聞(きこ)へそしらん、口(くち)の邊(へ)にうかへしきほぬ脣(くちびる)などあな出(だ)しかひやが、かゝる時(とき)に身(み)を置(おき)てあけくれに見る人の一人(ひと)もまごぐるもなく我(わ)れをしるものなし、あともおもへばあやしう「人(ひと)」の世(よの)に生(うまれ)し心(こころ)地(ぢ)をする、我(わ)れは女(めの)なりいかにおもへる」とおワともそ人(ひと)世(よの)に行(い)ふべく事(こと)かあらぬか

(「ソルクス」の上) 明治二十九年(1906)一月(1月)一十日(10日)

樋口一葉と明治の女たち

◇一葉という人（1872～1896）

明治5年 東京生れ東京育ち 本名 奈津。 兄2人、姉1人、妹1人。

両親 樋口則義、滝子。甲州の農家の娘。妊娠中に駆け落ち上京。

女戸主 15才の時、兄泉太郎の死。17才の時、父の死。

「萩の舎」 和歌や、源氏物語などを勉強する歌塾。（主宰中島歌子）

◇半井桃水との恋と別れ

作品『雪の日』26年『文学界』 『花ごもり』27年『文学界』

奇跡の14か月の作品群 1894（明治27）～1896年（明治29）

『おおつごもり』『たけくらべ』『にごりえ』『ゆく雲』『十三夜』

『わかれ道』など

・さまざまな女たちの生き方を描く。

◇一葉のサロン 平田禿木 戸川秋骨 斎藤綠雨 島崎藤村 「文学界」の同人、 そして時の作家たち（全て男）

名作『たけくらべ』 森鷗外激賞

「われはたとい世の人に一葉崇拜のそしりを受けんまでも、此人に誠の詩人
といふ称をおくることを惜しまざりけり」

◇自立の意志――

私はどの生き方もしたくない。ものを書く自立した女になりたい。

『にごりえ』のお力とお初 原文1

「われは女なりしものを」 日記「みづの上」 原文2

明治29年2月20日

◇明治の女性たち

岸田俊子（1861～1901） 若松賤子（1864～1896）

三宅花園（1868～1943） 清水紫琴（1868～1933）

木村 曙（1872～1890）